

## 大志の会 永戸 孝之 議員

### 発達が気になる児童への教育委員会体制整備

**(質問)** 平成26年、私立幼稚園8園で、専門員による「気になる子ども実態把握」を実施した。保護者からの相談が22種類以上に及び、個別の教育支援計画の作成の難しさ、小学校への引き継ぎの難しさを報告している。本市では、平成30年度に5歳児全員の集団適応健診を実施するが、モデル事業の結果から、支

援の必要な児童は小学校だけで約4,300人に上る。専門性の高い支援体制をどう構築するか。

**(答弁)** 本市では、就学前から小学校、中学校、そして高校への引き継ぎの際には「すずかっ子支援ファイル」を用い、個々の特性に応じて丁寧引き継ぎを行っている。各学校・園では校園長が推進の核となる特別教育支援コーディネーターを指名し、校務分掌に位置付けている。コーディネーターの意識が高まる一方で、役割が多岐に渡り、対応に苦慮している。

その他の質問 ○総合計画2023の総括

## リベラル鈴鹿 中村 浩 議員

### 長太小の転落防止フェンスの設置のパート3

**(質問)** 災害時の津波避難ビルとして、長太小学校に屋上転落防止用フェンスなどを設置すべきではないか。現状と設置時期を問う。

**(答弁)** 長太地区では4施設が津波避難ビルに指定されており、現状の施設で長太地区の災害時要援護者への対応が可能であることから、国庫補助制度の採択については対象とな

りにくいと予想される。

当面は、津波避難施設整備事業を活用した集合住宅など、民間施設の機能強化による津波避難ビルの指定拡大を図ることで、収容人員の増加を進める。

長太小学校の屋上転落防止フェンスの設置に関する早急な整備は見送っている状況であるが、民間施設の津波避難ビルを確保することが困難になった場合には、あらためて検討していきたい。

その他の質問 ○Cバスについてのパート24

## すずか倶楽部 後藤 光雄 議員

### 緊急地震速報について

**(質問)** ①平成21年に整備した、到達猶予時間を通知するシステムはどうなっているか。②Jアラート(全国瞬時警報システム)とCNS提供の緊急地震速報との同時放送訓練は可能か。③いつでも、どこでも、何をしても緊急地震速報が聞こえるための施策は。

**(答弁)** ①白子公民館などの3施設はJア

ラートに変換。市庁舎、文化会館の他に市民会館、上下水道局、鈴鹿中央消防署の4分署、南消防署に追加設置。②Jアラートと緊急地震速報は、互いに独立したシステムであるので、同時の放送訓練は不可能。③Jアラートの全国一斉情報伝達訓練の機会に、消防職員や消防団などの協力を得ながら市内各地での聞き取り調査をし、より確実に住民へ伝達できる手段を調査研究する。

その他の質問 ○公園の草刈りとトイレについて

## 新緑風会 山口 善之 議員

### フレイル予防について

**(質問)** 健康な状態と要介護状態の間をフレイル(虚弱)と呼び、「運動不足、食の偏りによる筋力の低下で起こるサルコペニア\*」、「気力や意欲が低下し、うつ病や認知症のリスク」、「家に閉じこもりがちで外出の機会が減り人との交流がなくなる」といった3つの側面をもつ。先進地においては、フレイル予防として、フ

レイルチェックプログラムを活用し、市民サポーターを養成して助け合い、支え合う、健康長寿に向けた施策を行っている。本市も取り組むべきではないか。

**(答弁)** 本市において、要介護認定者数が2025年には1万人を超えると推計されている。現状でも介護予防に取り組んでいるが、他の自治体で実施しているフレイル予防の取り組みについても調査研究し、参考にしながら、良いところを積極的に取り入れていこうと考えている。

\*サルコペニア: 年をとるにつれて、筋肉が衰える現象